

第1回 国立市地域公共交通会議 要点記録

◆日 時 平成25年2月15日（金）
午後3時30分から5時20分

◆場 所 国立市役所 3階 第1・2会議室

◆出席者

国立市地域公共交通会議委員（代理出席含む）14名

会長	岡村敏之	学識経験者
副会長	小沢宏康	都市振興部長
委員	佐藤祐浩	一般乗合旅客自動車運送事業者
〃	窪田洋	〃
〃	原田弘司	一般乗用旅客自動車運送事業者
〃	清水光司	〃
〃	（代理出席）	国土交通省関東運輸局
〃	（代理出席）	一般旅客自動車運送事業者労働組合
〃	江村英利	市道管理者
〃	井上伸一	警視庁立川警察署
〃	田中義忠	公募市民
〃	三好幸雄	〃
〃	熊井大	〃
〃	池田洋介	〃

（敬称略）

事務局	5名	都市振興部建設課交通係
-----	----	-------------

◆欠席者

委員	脇坂義祐	都道管理者
----	------	-------

◆配布資料

- ①次第
- ②資料No.1 国立市地域公共交通会議 委員名簿
- ③資料No.2 国立市地域公共交通会議 設置要綱
- ④資料No.3 国立市地域公共交通会議の目的・役割
- ⑤資料No.4 地域公共交通会議のスケジュール（案）
- ⑥資料No.5 国立市の概況
- ⑦資料No.6 コミュニティバスの現状と課題
- ⑧参考資料 国立市都市計画マスタープラン
- ⑨ 〃 国立市総合基本計画（第四期基本構想 第2次基本計画）

- ⑩ // 国立市都市計画図
- ⑪ // 「くにっこ」パンフレット
- ⑫ // くにっこ既存ルート図
- ⑬ // 移動交通手段に関するアンケート
- ⑭ // 2011年度（平成23年度）26市のコミュニティバス収支状況

◆要点記録

- ・委嘱状交付
- ・市長挨拶～国立市コミュニティバス「くにっこ」は平成15年3月に運行開始しまもなく10年になる。市民の足として利便性を確保するため運行しているが、公共交通として市民から預かった税金をより有効に活かしていくことも必要である。是非、生産的な議論をお願いしたい。
- ・委員紹介
- ・会長及び副会長の指名
 - 会 長 岡村 敏之氏
 - 副会長 小沢 宏康氏
- ・資料確認（事務局）

◇会長あいさつ

この「地域公共交通会議」は法定の会議であり、きちんとした手続きが必要になってくる。委員の皆さまにはいろいろと知恵を出し合っていただきたい。また、法令で定められているということは重い意義があり、この会議で決まったことが実行に移されていくということを踏まえ、ただ議論するのではなく物事を決定していくことに委員の皆さまの協力を期待する。

◇議題 質疑及び意見交換

①国立市地域公共交通会議の目的・役割、今後のスケジュール（事務局説明）

委 員：事務局から「くにっこ」についての話があったが、これ以外の公共交通に関することはどのように意見を出せばいいのか。

事務局：緊急の課題の中で、くにっこの見直し、新規ルートの導入があります。この会議は、公共の交通に関するものを行っていきますので、他の交通に関することのご意見も、随時受けて行きたいと考えています。

委 員：くにっこで、市町村をまたぐルートは考えられないのか。

事務局：他市との連携を図る機会があれば考えることは可能である。ただし、他市との連携については今のところ具体的な動きはないものと考えている。

委 員：泉地区は国立市域の南であり府中市や日野市とも連携が必要な地域であると考えている。

委 員：くにっこパンフレットは全体的に分かりにくい。実際の地図に走行ルートを落とすなどどこを走っているのか、どこにバス停があるのかがわかるような案内図にしてもらいたい。また高齢者の利用が多いのなら文字を大きくするとか工夫が必要ではないか。

会 長：今の意見は、救っていく対象は何なのか？（サービスの対象者をどこにおく

か)、何を解決すべきなのか？を明確にすることが大切という指摘につながる。具体的な解決案については次回以降に議論していくことになると思う。

委員：くにっこの朝の乗車率はどうなっているのか。

事務局：後ほど説明いたします。

委員：南部地域は道路が狭く渋滞しやすく、交通の便も悪い。道路の拡幅などで混雑を緩和することはできないのか。それによってバスの乗車効率を上げることはできないのか。

会長：交通の利便性を上げる手段はバスに限らない。バス以外の手段が有効な場合もあるということをこの会議を通して内外に発信していく必要があるのではないか。

②コミュニティバスの現状と課題（事務局説明）

委員：(車両幅 2.08m の車が) 相互通行可能である幅員 5.66m 以上の道路を明示した地図は用意できないか。

事務局：車両制限令の規定にある、バスの車幅と道路の幅員の関係を示した簡単な図を用意いたします。

会長：次回の会議で何をするのか、事務局の方針を聞いた上で議論を進めたい。

事務局：事務局としてまとめた改善計画案を提示し、それを土台として委員のみなさんの意見を伺いたいと思います。

会長：案というのは、ルート図や時刻表を提示していただけるのか。

事務局：時刻表までは難しいが、各ルートの所要時間などは提示できると思います。

委員：現在の朝のくにっこ北ルートはサラリーマンで満員で高齢者が利用しにくい状況にある。会社や組合の意識としてはコミュニティバスは高齢者向けだと思っているが、コミュニティバスとして何をしようとしているのか整理が必要ではないか。また、資料の中で営業係数の提示もあるが、あまりに収支にこだわると本来の目的（交通弱者の救済）を見失うことにならないか懸念している。

会長：バスの対象を誰にするのか、政策としての優先順位が大事だと考える。高齢者が乗らない時間は、サラリーマンの足として活用すれば収益が見込めるのでそういった側面も考えていくべきではあるが、政策として何がしたいのかという目標とその優先順位をはっきりさせていきたい。

委員：JR が国立駅高架下に駐輪場を整備する予定はあるのか。

事務局：JR 中央線の連続立体交差事業が行われており、高架下の有効活用も検討されているが、具体的な駐輪場整備の計画は出ていない。市としては、駐輪場の確保を検討し、JR に打診している。

委員：もし高架下に駐輪場ができれば、くにっこに乗っていたサラリーマンは自転車を利用すると考えられ、交通や人の流れが変わると予想される。そういった長期的視野で今後のことを考えていく必要があるのではないか。

会長：当然そういった要素も今後考慮に入れていく。

委員：国立駅北口には、くにっこを導入した10年前の時点では路線バスがなかったもので、コミバスの機能と路線バスの機能をあわせ持った地域の足になるだろうということで導入には協力した。交通空白地域から駅・病院・公共施設へのアクセスをどうするかをしっかりと考えていくべきだ。

委員：岡村会長はくにっこに乗ったことがあるか。

会長：乗っていない。

委員：会議室だけでなく、実際に乗ってみて実りある議論をした方がよいのでは。行政と事業者、住民の3者が連携をしっかりと図っていくべき。資料の質を高めるために、事業者側の方からも行政側に積極的に情報提供してほしい。

会長：資料の作成は事務局側の努力も必要であるが、人数も多くないので口頭での説明も補足的に追加して理解していくようにしたらどうか。

事務局：用意してほしい資料等あれば事前に連絡していただければ作成します。

◇次回の連絡

日時：3月26日（火）14時半～

場所：くにたち市民総合体育館 2F 会議室